

# SAPIENTIA No. 23

改修された学生会館

発行：サピエンチア会(英知大学・聖トマス大学同窓会) 〒661-8530 兵庫県尼崎市若王寺2-18-1 発行責任者：藤本滝三 編集/サピエンチア会 2012年10月

## ご挨拶



文学部イスペインア文学科  
1973年卒

サピエンチア会 会長

藤本 滝三

会員の皆様には、日頃より同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当初この会報を今年も発行出来るとは想像だにしていまませんでした。と言いますのは皆様もご存じのように昨年、大学は学長学歴詐称問題等で新学部申請を2014年まで認めないとという厳しい処分を文部科学省から受けました。在校生が4回生のみになり、それに伴い教職員の減少、さらに向こう2年間は学生不在でまさしく満身創痍の状態です。そんな中、元東京慈恵医科大学教授で現ローリエット・インターナショナル・ユニバーシティーズ健康科学アジア代表である大井静雄氏が学長に就任されました。氏は兵庫県のご出身でカトリック夙川教会所属の信者でもおられます。大井学長は就任されるや否や、「同窓会が有ってこそ今の大学が有る！是非これからの新しい大学を創造する為にご協力を頂きたい」とのお言葉を頂戴致しました。

また「まずは2013年の学校法人英知学院創立50周年記念を皆さんとお祝いしましょう」という我々にとってはこれまた晴天の霹靂ですが、嬉しいお話であります。

私自身、同窓生の皆様には時系列に従って今日までの経緯をご説明をしなくては行けないのですが、この3月から学内の出来事は、そんな時系列を無視して考えないともどもご説明の出来るものではありません。50周年に向けての合同会議も9月25日で、はや7回目になります。本誌2ページ目の「学長のご挨拶」、に「創立50周年記念事業のお知らせ」を載せていますので一読下さい。

我々卒業生としましては50周年は喜ばしい事です。しかし、何よりの関心事は、「今後どの様に大学が継承されていくのか？」という学部編成になり、どういう名前の大学になるのか？」肝心なところが見えていないことです。2015年4月から新入生を入学させようとするれば悠長な事は言っておられません。

来る11月3日のホームカミングデイの日に英知学院リン理事長、大井学長、教授陣、同窓会を含め「継続は力なり」と言うテーマでこの50年、そしてこれから大学についてフォーラムと言う形で話し合いをさせていただきます。同窓会として色々な角度から現大学経営陣、教

## 追悼ミサ・総会・ホームカミングデイのお知らせ

日時：2012年11月3日(土・文化の日)

会場：聖トマス大学内

※詳しくは最終ページ(4ページ目)をご覧ください

授陣の方々のお話を聞き、疑問点を質問させて頂きたいと思っております。

英知大学から聖トマス・アクイナス大学国際協議会(IC-USTA)に加盟、聖トマス大学に名称変更、2年足らずで募集停止をし、それ以降も短期間の間に学長が代わっております。現在、大学は2015年に新入生を迎える為に再チャレンジの準備をしているところです。もしこの準備に不備、手落ちがあれば今度こそ立ち直ることの出来ない深手を負う事になります。同窓会はそういう事のないように願うと同時に、できる限り大学の再チャレンジに協力させて頂く所存です。

来年の11月4日(月・祝)には皆さんと共に英知学院開学50周年を我々の学び舎に於いてお祝いしたいと思います。その時点ですべて正式大学名、学部、そして方向性が確立されていると思います。その布石として今年、11月3日のフォーラムにおいて実りある話し合いがなされることを期待しております。

大学は今、新しいチャレンジに向けて英知と勇気、さらに緻密さをもって諸準備を推し進めて頂いていると推測いたします。今年の11月3日にはそんな大学をそして大井学長を応援する為に是非このフォーラムに皆様のご参加をお願いいたします。

在校生も4回生のみが50名余りとなっています。今年は自分達の手で最後の思い出作りの為に最後の大学祭を開催すると意気込んでいます。彼らの応援の為にどうぞ懐かしき学び舎に足をお運び下さい。切に、切にお願い申し上げます。



## サピエンチア会ホームページのご案内

<http://www.sapientakai.com/>  
お気に入りに登録をお忘れなく！

ご存知の通りサピエンチア会は収入の柱であった入会金が絶たれ、会の運営が困難な状況です。経費の中でも会報の印刷代、郵送費が大きなウエイトを占め



ております。今後は郵送からホームページへの掲載をもってご案内とすることは避けられません。大学の状況や卒業生へのご連絡等を発信しております。



大井 静雄 学長

## 学長よりご挨拶



聖トマス大学は、1963年に設立され、現在までに国際的な視野をもって特色ある教育及び研究活動を続けて参りました。1983年にはLoras College (Dubuque, Iowa, USA)、1997年にはUniversité Catholique de L' Ouest (France)、1998年にはSuzhou Railway Teachers' College (China)ならびにUniversidad de León (Spain)と姉妹校の提携を結び、さらに世界諸国にその教育の輪を広げてきました。特に近年では、Washington State University (USA)、Aquinas University (Philippines)そして、Australian Catholic Universityとの交流が盛んになりました。さらには、1994年にInternational Language Education Centerを、そして、1997年にはInstitute of HumanitiesおよびInternational Language and Culture Instituteを設立し、多くの海外からの留学生はもちろん、国内にあって世界視野の見識とコミュニケーション能力を有する幅広い人材養成に成果を上げて参りました。2007年、本学の日本語名称は、英知大学から聖トマス大学へと変更され、聖トマス大学国際協議会 (IC-USTA) の正会員として認証されました。

このような先駆的なglobal educationを基盤とした教育活動に加え、研究活動において大学の教員ならびに研究者は各々の専門領域の研究

成果を上げてきました。この根底には、専門とする学術領域における本学の最高学府としての使命感と、聖トマス・アクイナスの学問による真理を探究する精神があります。これらの学術業績の足跡は、本学の学術誌『サビエンチア』(1967年刊行、現在までに46号発刊)他、多くの学術誌に記されています。また、本学の図書館には、神学分野の蔵書42,000冊をはじめ、270,000冊余りの蔵書があり、これらの教育・研究活動を支えてきました。

2013年、本学は創立50年の節目を迎えます。1963年の設立以来、10,000人を超える学生を育成し、国際社会において共存共栄をはかる世界市民に相応しい本学がめざす人材が、社会に羽ばたいています。21世紀を迎え10余年、国際情勢は大きく変動し、それに伴い、本邦における大学に求められる機能も多様化し、より強い個性をもった高等教育の実践が望まれます。本学においては、半世紀に及んで築き上げてきた教育研究の実績を生かし、「人間性豊かな国際人」の育成を、他にはないグローバルな規模で実践して行きます。

これまでのglobal educationをさらに特色をもたせて転換させていく所存であります。すなわち、わが国の高等教育におけるひとつの大きな役割は、今や「技術創造立国」を維持発展させるべく、その国際競争に貢献できる人材を育成することがあげられます。本学では、本学のもつ世界の大学ネットワークを有機的に利用し、日本が世界に誇る領域の「技術創造」や「知的創造」をより国際的に発展させる教育を、本邦の学生はもとより、全世界の学生を対象として展開していきます。諸外国の大学からは、日本の世界トップにある「英知」と「創造」を学ぶ学生を教育し、又、本邦の学生には、世界に学びさらにそれらを世界に普及・発展させる教育を展開します。

### 「継続は力なり」

本学は、50年のglobal educationを日本の世界におけるリーダーシップに生かします。

## 聖トマス大学 創立50周年記念事業のお知らせ

聖トマス大学記念事業 実行委員会 メンバー

実行委員会委員長	学長	大井 静雄
実行委員	研究科長	井勢 健三
	学科長	岡崎 巨博
	学科長	奥村 三和子
	学科長代行	マーティン・ウエザビ
	CCE所長	山根 キャサリン
	法人事務局長	左近允 隼人
	就職部長	井田 規文
	学生支援室長	松村 繁彦
	教学部次長	刈屋 悌二
	教学部課長	今枝 恒雄
	教学部主任	河島 美穂
	図書館事務室課長	中西 真也
	SISEC所員	阿部 稔史
	同窓会会長	藤本 滝三
	同窓会副会長	篠原 一夫
	同窓会副会長	地村 昭彦

聖トマス大学は、2013年に創立50周年を迎えるにあたりまして、大学創立50周年記念事業を行うこととなり、この度実行委員会を組織いたしました。ここに基本的な記念事業の内容をお知らせいたしますと共に、何卒宜しくご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 聖トマス大学創立50周年記念事業計画

次に掲げる本学の4つの大きな視点に立って、以下の事業計画を実行致します。

1. 聖トマス大学50年の歩み「記念誌」発行 (電子媒体及び記念本)
2. 『サビエンチア』第47号 (2013年) 創立50周年記念号発行
3. 聖トマス大学創立50周年同窓会記念誌の発行 (電子媒体)
4. 聖トマス大学創立50周年記念一般公開フォーラム「継続は力なり」  
(Part I 2012年11月3日 (土)) & (Part II 2013年11月4日 (月・祝))
5. 聖トマス大学同窓会ホームカミングデー開催  
(2012年11月3日 (土)) & (2013年11月4日 (月・祝))

### □ 聖トマス大学50年の歩み

聖トマス大学は、1963年に設立され、現在までに国際的な視野をもって特色ある教育及び研究活動を続けて参りました。1983年にはLoras College (Dubuque, Iowa, USA)、1997年にはUniversité Catholique de L' Ouest (France)、1998年にはSuzhou Railway Teachers' College (China)ならびにUniversidad de León (Spain)と姉妹校の提携を結び、さらに世界諸国にその教育の輪を広げてき

ました。特に近年では、Washington State University (USA)、Aquinas University (Philippines)そして、Australian Catholic Universityとの交流が盛んになりました。さらには、1994年にInternational Language Education Centerを、そして、1997年にはInstitute of HumanitiesおよびInternational Language and Culture Instituteを設立し、多くの海外からの留学生はもちろん、国内にあって世界視野の見識とコミュニケーション能力を有する幅広いに成果を上げて参りました。

2007年、本学の日本語名称は、英知大学から聖トマス大学へと変更され、聖トマス大学国際協議会 (IC-USTA) の正会員として認証されました。創立50周年を迎えるにあたり、本大学の歴史をまとめ、先人の足跡を記録・保管する所存です。

### □ 聖トマス大学の研究活動

このような先駆的なglobal educationを基盤とした教育活動に加え、研究活動において大学の教員ならびに研究者は各々の専門領域の研究成果を上げてきました。この根底には、専門とする学術領域における本学の最高学府としての使命感と、聖トマス・アクイナスの学問による真理を探究する精神があります。これらの学術業績の足跡は、本学の学術誌『サビエンチア』(1967年刊行、現在までに46号発刊)他、多くの学術誌に記されています。また、本学の図書館には、神学分野の蔵書42,000冊をはじめ、270,000冊余りの蔵書があり、これらの教育・研究活動を支えてきました。『サビエンチア』第47号2013年発刊の1号を、創立50周年記念号として、これらの学術論文や学位論文の50年の総括をアーカイブスとして発行する予定です。

### □ 聖トマス大学の教育活動

2013年、本学は創立50年の節目を迎えます。1963年の設立以来、10,000人を超える学生を育成し、国際社会において共存共栄をはかる世界市民に相応しい本学がめざす人材が、社会に羽ばたいています。21世紀を迎え10余年、国際情勢は大きく変動し、それに伴い、本邦における大学に求められる機能も多様化し、より強い個性をもった高等教育の実践が望まれます。本学においては、半世紀に及んで築き上げてきた教育研究の実績を生かし、「人間性豊かな国際人」の育成を、他にはないグローバルな規模で実践して行きます。文科省の教育指針の変遷も鑑み、今、そして近未来に、本学が実践していくべき教育のあり方を、創立50周年記念一般公開フォーラムを開催し、徹底的に討論する場を企画しています。

### □ 聖トマス大学が目指すもの

本学が目指す新たな時代の教育方針といたしましても、この国際社会の変動に対応して、これまでのglobal educationをさらに特色をもたせて転換させていく所存であります。すなわち、わが国の高等教育におけるひとつの大きな役割は、今や「技術創造立国」を維持発展させるべく、その国際競争に貢献できる人材を育成することがあげられます。本学では、本学のもつ世界の大学ネットワークを有機的に利用し、日本が世界に誇る領域の「技術創造」や「知的創造」をより国際的に発展させる教育を、本邦の学生はもとより、全世界の学生を対象として展開していきます。諸外国の大学からは、日本の世界トップにある「英知」と「創造」を学ぶ学生を教育し、又、本邦の学生には、世界に学びさらにそれらを世界に普及・発展させる教育を展開します。

## 花野 俊昭先生を偲んで

長年にわたり 英知大学、聖トマス大学で体育教員を務めて頂いていた花野先生が2012年8月8日にご逝去されました。昨年の7月に膵臓がんが発見され入院を繰り返され肝硬変に至りました。享年67歳でまだまだこれからという若さでした、残念で成りません。ご冥福をお祈り申し上げます。

## 追悼ミサのお知らせ

この11月3日には皆様と共に大学内のチャペルにおきましてミサをおこないます

2012年11月3日(土・祝) 9:30~

## 花野先生の訃報に接して

先生が亡くなられたとの知らせを受けた時、すぐに信じる事が出来ずに 何故?と言う思いが頭の中を支配していました。先生との出会いは、もちろん学生時代の体育の授業が最初でしたが、ある選択科目の受講がきっかけで、今日まで先生と親しくさせて頂きました。それがバドミントンでした。私は1回生~2回生は文科系クラブに属していました。バドミントンを体験してからは、その不思議な魅力に取りつかれ、体育の授業以外にも時間があれば、体育館内の先生を訪ねて、指導して頂いた記憶がよみがえってきます。当時バドミントンクラブは存在していませんでした。こんな楽しいスポーツを他の人たちと一緒に共有出来ればとの思いが強くなり、ある日先生に相談したところ1年下にバドミントンの上手い女の子がいるから一度訪ねて見たら・・・と言われ、次の日、早速彼女を訪ねて、一緒に練習してくれないかと声を掛けたのがバドミントンクラブ創設の第一歩となりました。当時のメンバーは、経験者1人を除いて全員が未経験者

という顔ぶれでした。先生と私と彼女三人で練習した事も何度もありました。とにかく楽しかった!一度もつらいと思った事はありませんでした。これが、不思議なんです。そして日がたつにつれ、三人が四人・五人・六人・・・と仲間も集まってきました。ただ経済的な面、環境的な面を考えれば、クラブに昇格し、補助金等を支給してもらうまで頑張ろうという共通の思いが全員に芽生えて来ました。サークル→同好会→クラブと一つ一つ実績を積み重ね進んで行く事が出来たのも先生の有形無形のご援助のおかげだと感謝しています。こうしていると思いきや書き尽くせない様々な思い出が脳裏に浮かんで来ます。兄のように寛大で優しく導いて頂いた先生の、熱い人間愛に満ちたお姿も今は拝見することが出来ない事、残念でなりません。長い間、公私に渡りお世話になり誠にありがとうございました。バドミントン部一同 心からご冥福をお祈り申し上げます。



文学部英文学科  
1975年卒  
宮崎 信雄

## 『サピエンチア会へのご寄付のお願い』

会員の皆様には日頃より同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

いよいよ来年3月の卒業式で最後の学生達が巣立って行きます。2015年4月までの約2年間は学生不在の期間がございます。この2年間で誰がいつ何をするかはここで触れることはしません。事実として有るのは同窓会の運営資金が枯渇してしまうと言う事です。一時は来年で廃校になると言う瀬戸際まで来ましたが、関係各所のご尽力で延命措置が講じられています。毎年、事ある度に申し上げて参りましたが、我々サピエンチア会(同窓会)は「大学が無くなっても同窓会活動は継続させてゆく!」と・・・しかしここに来て 学校法人英知学院は残る、学び舎も残ると言う一条の光が見えて参りました。もうひと踏ん張りです。新しい大学に学生達が集まってくれば、又学び舎に笑顔と笑い声が戻ってきます。そうなる日まで同窓会は石にかじりついてでも 頑張るつもりでございます。

昨年の11月3日(祝)のホームカミングデイ当日には153,000円、郵貯の振替口座の方には348,420円のご寄付を頂戴致しました、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。この現有の資金を無駄なく有効に支出することを念頭に 皆様より一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

今回のこの封筒には学校法人英知学院50周年記念事業に対する大学からの寄付の要請も同封されております。この経済状況の厳しい折りですがなにとぞ現状をご理解賜りご支援頂く事を切にお願い申し上げます。

【同窓会への寄付金としてご寄付頂きます場合は、同封させて頂きました振込用紙でお振り込みをお願いするとともに、もし住所変更や新しいご住所でお振り込み頂く場合は振込用紙にその旨を直接ご記入下さい。】

2012年9月吉日 同窓会役員一同

## 英知学院創立50周年記念事業 「卒業生対象就職相談会」

2012年11月3日に開催されます聖トマス大学大学祭で、英知学院創立50周年記念事業のプレ・イベントとして、卒業生対象の就職相談会を就職委員会主催で行います。就活の悩みや就活のスキルについての相談をお受けしますので、参加下さい。

開催日	2012年11月3日(土)
時間	午前11時~午後3時
場所	聖トマス大学 本館1F(予定です)
相談対象	英知学院卒業生
主催	聖トマス大学 就職委員会
お問い合わせ	聖トマス大学 就職指導室 fujioka@st.thomas.ac.jp

### 就職部から卒業生へ お願い

卒業生の方で、求人の情報をお持ちの方がおられましたらご連絡下さい。4回生で就活中の学生がいます。また卒業生の方にも求職中の方もおられますので皆様の求人情報をお待ちしております。

TEL 06-6491-7169 FAX 06-6491-5244

聖トマス大学就職部

## 英知大学【84年卒同窓会】全員あつまれ~!

### 英知大学84年卒業生の皆様へ

今年で、全員50歳代になり人生に於いて節目の年となりました。皆様卒業されてから約30年ぶりになりますが、この度、学科に関係なく、84年卒業の懐かしい仲間全員が集合してはどうかと思い、下記「同窓会」の企画をさせて頂きました。

一人でも多くの方のご出席をお待ちしております。

日時:平成24年11月23日(祝)12時~15時(11時30分開場)

場所:大阪市淀川区東三国2-3-2-9

『HOTEL WING INTERNATIONAL 新大阪』

(御堂筋線 東三国駅 1番出口 徒歩2分)

TEL:06-6395-1500

会費:6,500円(料理、ドリンク飲み放題、部屋代、カラオケ使用料込み)

<幹事>英文学科:柴田 臣功

西文学科:筒井 聖健

仏文学科:中井 勇吾

神学科:兼田 聖子

<連絡先>代表幹事(筒井):eichil123@yahoo.co.jp

ご連絡お待ちしております

## 11月3日母校に集合! 還暦同窓会のご案内

秋晴の候、皆様にはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。ご存知の通り私達の母校は現在も新入生の募集を停止したままです。新学長をはじめ、教授、職員の皆様には学校継続へ最大限の努力はされておられますが、依然として今後については不透明な状態が続いております。最悪の場合、今回が母校において開催できる最後のホームカミングデイとなる可能性もあり、同窓生の皆様においてもご心配多き事と存じます。そういった中、奇しくも多くの人が今年還暦という人生の節目を迎える(迎えた)我々1975年卒業生が再度母校に集い旧交を温めると同時に、今後の同窓会のあり方を語り合えればと思っております。同窓生アーティストの皆さんにもご協力いただき、様々なイベントもご用意しております。

どうぞ万障お繰り合わせの上ご参加いただけるようお願い申し上げます。

1975年卒業生還暦同窓会実行委員会



文学部  
イスパニア文学科  
1975年卒  
難波 孝宏

# 追悼ミサ・総会・ホームカミングデイのご案内

開催日 2012年11月3日(土・祝)  
 会場 聖トマス大学 コロクトリウム  
 ※雨天の場合は校門に掲示

## お車でお越しの方へ

駐車場へは大学の西門よりグラウンドにお降り下さい。  
 グラウンドには児童の方が沢山おられますのでお気をつけてご入場下さい。  
 尚、お車でお越しの方は呉々も禁酒をお願い致します。

## スケジュール

教職員・卒業生物故者追悼ミサ	9:30 ~ 10:15	チャペル
英知学院聖トマス大学創立50周年記念事業 一般公開フォーラム『継続は力なり』	10:30 ~ 12:00	H301号教室
2011年度サピエンチア総会	12:15 ~ 13:00	コロクトリウム
ホームカミングデイ	13:00 ~ 16:30	コロクトリウム
還暦同窓会(1975年卒業生一同)	13:00 ~ 16:30	コロクトリウム
●模擬店 13:00ごろスタート		
たこ焼き・ラーメン・トルティージャ等 趣向を凝らした模擬店を予定しています		
●卒業生コンサート 13:15~16:00		
出演予定: 大上留利子さん、平山修三さん、扇敏子クワルテットの皆さん		
●ビンゴゲーム 16:00		

## 総会議案

第一号議案	2011年度事業報告(案)
第二号議案	2011年度決算報告(案)
第三号議案	2012年度事業計画(案)
第四号議案	2012年度予算(案)
第五号議案	サピエンチア役員改選
報告事項	サピエンチア会 関東支部報告

## 聖トマス大学最後の大学祭

感謝祭

<テーマ;いちごいちえ>

【メインステージ:学生会館2階】

10:00~10:15	開会の言葉
10:15~10:45	クイズ
13:00~13:45	チアリーダー
13:30~14:00	カラオケ
14:15~14:45	STU48
15:00~15:30	ビンゴ大会
15:45~16:00	閉会の言葉
16:00	終了

【キッズのスポーツ:運動場】

11:00~12:00 (ドッジボール)

【世界の料理:学生会館の周りのテント】

10:45~13:00 外国人の教職員と学生が各国の料理を!!

同時開催:【平和祭】沖縄を食べ×知り×楽しむ=『へいわ』

15:30~19:00 聖トマス大学 体育館 1階

## 同窓生集まりましょう!!

一昨年の学祭ではクラブやクラスのグループが一同に会せる同窓会会場があり、テーブル毎に年月を経た懐かしい面々に再会できました

昔のピアバミたいで、皆が学生に戻る気がしましたね

藤本同窓会長さんとやり取りする機会がありました

今回のホームカミングデイの会場は一昨年のような団体用のテーブルはないとのこと

もし他にその様な教室が確保出来たら…と本館二階の2教室を用意していただきました

2つの教室に分けたのは“クラブハウス部屋”と“学館部屋”と名付けての試み

当時“そこ”に足を運べば自分達のグループのみならず、他の仲間たちが集まっていたね

テーマを決めておけば皆さんも仲間に誘い易いし、またその場で懐かしい仲間再会する可能性は高まります

模擬店も出ますし、手料理の持ち込みも良いですね!

駅前にもコンビニや商店、あのトリゴのパン屋も健在ですので、それらを持ち込むと気が楽になります

勿論、両方の行き来も楽しいですし、そこを拠点に学祭イベントやホームカミングデイ、学内散歩に足を伸ばされるのもお勧めです

今から連絡を取るのに時間は少ないでしょうが、今はmixiやFacebookなどのSNSを使えばまだ間に合います

今回テーブル予約制ではありません

現地集合で集まり、仮にテーブルが足らなかつたら合わせ機のテーブルを譲り合い、相席でも良いとしましょう

“最期の学年”の現役生が、この四年間を形にしようとして学祭を企画してくれました

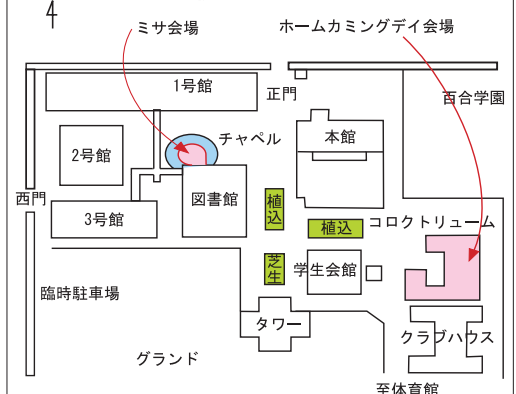
彼らは誰一人として見送られる後輩無きまま卒業式に向かいます

大学の名前は変われども、我々の弟や妹に変わりはありません

ただ、我々に出来ることは、そんな彼らの学祭にいかなる形でも出向き、少しでもあの校舎に“にぎやかな声の差し入れ”をすることくらいかなと信じております。

91年西文科卒 イスパニア語研究会0B 永井 勝

## 校内マップ



## 昨年の楽しかったホームカミングデイの様子



ミサ

教職員・卒業生物故者のミサに朝早くから多くの方にご参列頂きました



総会

理事長が新しくローリエットのリン氏に代わって初めての総会でした



再会

昨年の還暦同窓会にお集まりされた1974年卒業の皆さん



模擬店

ラーメン、たこ焼き、おでん、トルティージャ、等たくさん模擬店ができました。



コンサート

大上留利子さんと平山修三さんによるジョイントコンサート



復活

扇敏子クワルテットの皆さん1973年卒業の軽音部のOBのバンドです

## 編集後記

我々の母校である旧英知大学・聖トマス大学は長年続いた歴史に一旦幕を下ろします。

現在の4回生が来年3月に卒業しますと来年度からの2年間は学生不在の大学となります。

新しい経営母体であるローリエット・インターナショナル国際ユニバーシティズの協力の下、2年後に母校が再建されるのを心待ちにすると共に来年度からの同窓会活動をどう運営して行くのかが我々の課題であります。

先日、大井学長とお会いしました折に2013年に学校法人英知学院が開学50周年を迎える事をお伝えしますと「それは、とても良い機会ですので、学校職員・同窓生共に盛大にお祝いして、これからの学院の発展を共に取り組みましょう」との力強いお言葉を頂戴いたしました。

学内でも我々同窓会も含めた開学50周年記念事業委員会も立ち上がり、既にいくつかのプロジェクトも進行しております。これを機に各同窓生の皆様にもより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。またこれらの詳細につきましては、同窓会ホームページで随時お知らせいたします。来年度のホームカミングデーも出来れば例年通り母校で開催したいと考えております。

1989年文学部フランス語フランス文学科卒  
 地村 昭彦